

山形県出身・柴崎測量官の追想登山

つるぎだけ てん き やまたび
劔岳・点の記の山旅

…… 初めての北アルプス立山連峰 ……

2014年9月13日(土)夜出発。鶴岡、新潟経由で立山駅へ
 9月14日(日)立山駅から室堂。登山開始。劔山荘(泊)
 9月15日(月)劔山荘から劔岳。劔山荘を経て雷鳥沢H(泊)
 9月16日(火)雷鳥沢Hから室堂、立山駅。新潟経由で帰社
 大和工営一等三角点の会(山形県新庄市)

夢の実現へ・・・パート2

「針の山」劔岳へ

新田次郎原作の映画「劔岳点の記」は2009年6月20日に公開された。映画は公開されるや48日後の8月6日現在で、観客動員数240万人突破という邦画では驚異的な数字を記録した。「地味な測量の仕事」があたかもスポットライトに照らし出された感じがした。その主人公柴崎芳太郎測量官が山形県出身者とあつては、尚更「山男」の血が騒ぐ。難攻不落と云われた「針の山」劔岳への登山、それは遠い夢の存在であった。（「ゼンマイ採り」で岩場を登ってるんだから、登れないことはないだろう）とまるで場違いな^{ひゆ}比喻で、その実現の機会を^{うかが}窺っていた。

日本列島の大断層帯の山 !?..

「夢」は空想的な憧れであろう。しかし、地図やガイドなどを頼りに登山計画を練りながら、誌上登山の世界を歩き出していた。劔岳は日本列島の大断層帯「フォッサマグナ」の糸魚川-静岡構造線の縁にせりあがった北アルプスの北部に位置する。劔岳は測量登山の象徴的な存在であり、三角点を扱うからには是非とも登りたい山である。今回も「夢の実現」のため、富士登山同様登山歴が2、3年という初心者同然の仲間達と出かけることになった。

劔岳の位置と日本列島の大断層帯



いつ登るか?..

登山時期は仕事の関係を考慮すると、8月下旬の「新庄まつり」や「尾花沢花笠まつり」の頃が休暇を取り易いかも、と考えていた。しかし諸般の事情により時期を遅らざるを得なかった。そして9月12日(金)の夜に出発し、9月15日(月)の夕方に帰ってくることで登山日程を計画した。連休を利用した「劔岳登山」になる筈だった。しかし2泊目の9月14日(日)山小屋の予約が満員でとれず、日程を一日ずらしての行程となった。

登山ルートは!?!..

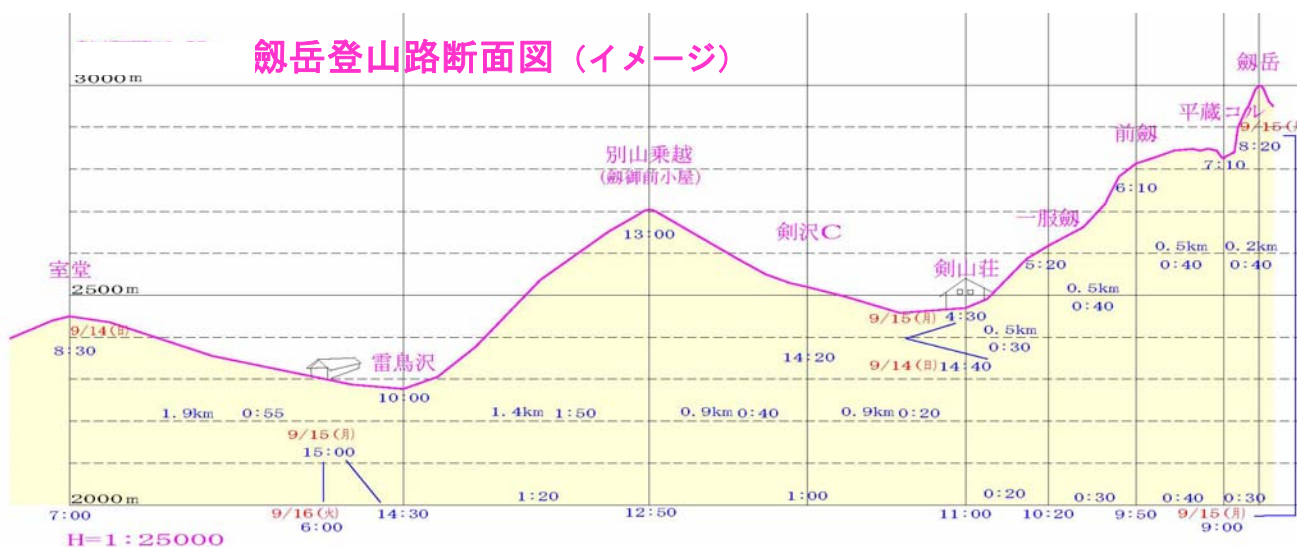
初めての北アルプス立山連峰である。登山行程は、車で富山県立山駅まで行き、立山ケーブルカー(7分)と高原バス(50分)を乗り継いで室堂に辿り着く。立山駅の標高は475mで室堂は2450mある。1時間の移動で2450mの天空に降り立つことになる。移動と共に増していく高度感も楽しみに思えた。室堂からは雷鳥沢までは高低差で170m程の下りになる。それでも標高2280mあり、鳥海山よりも高い。時間にして1時間30分と見込んでいた。その間、体も高度変化に慣れるだろうから、特に高山病について心配はしていなかった。雷鳥沢から劔御前小舎のある別山乗越(2705m)を越え、劔岳登頂の前線基地となる劔山荘(2470m)を宿泊地とした。

翌日は、日の出1時間前に劔山荘を出発し、運良く劔岳登頂を果たして劔山荘に戻る。それが一番の理想であり、そうあって欲しいものである。(天候とメンバーの体調がすべてを左右するが..)

初心者同然の登山隊が登れる山なのか??..

劔岳はかつて「針の山」とも云われた日本アルプスを代表する「名峰」である。「劔岳に登ろう!!」との「言いだしっぺ」である者として、謂わば「初心者同然の登山隊」が、果たして安全に登って帰って来られるだろうか?その懸念が付きまとう。絶対にアクシデントがあってはならない。メンバーにも、会社をはじめ「登山」に送り出してくれるすべての方に「不安」を抱かせないこと。それは重要な課題でもある。

私(筆者)自身も覚悟して劔岳に行く必要がある。そこで地形図から標高を読み取り「劔岳」への断面図を作成してみた。(測量会社の人?みたいでしょう!?)その断面図(下図)を読み解くと、雷鳥沢から別山乗越、そして劔山荘から前劔の登りはきつそうだが、時間をかけて登れば「クリア」できると確信が持てた。問題は「平蔵コル」から「劔岳」への傾斜角45°を超す絶壁である。でもガイド誌や「ネット」の登頂体験記などをみると、その間は鎖場や足場確保の鉄ボルトが岩に打ち込まれているのが確認できた。(なんだ、ゼンマイ採りをしているより「よっぽど」安全だ。)そう思い込むと気が楽になった。すべては天候とメンバーの体調にある。「運が良ければ」山頂に行けるかも、と希望の光が見えてきた。



新庄から立山駅へ..

映画「劔岳 点の記」のこと.. 一般的に測量の仕事は地味で目立たない職業である。それが新田次郎原作の『劔岳 点の記』が映画化された。測量業界団体の「公益社団法人日本測量協会」では、その映画制作段階から機関誌『測量』の誌上で特集を組み、その映画の魅力と「測量」に携わる「誇らしさ」を発信していた。

その思いは一地方の測量会社で働く私達にとっても同じであった。映画が上映された年の鳥海山の一等三角点は、多くの登山者から頭部をタッチされてオオモテであった。

昨年（2013年）の富士登山を終えてから、山形県出身の測量官が命を賭して登頂した劔岳登山の準備をしてきて、ついに実現する時がきた。少なくともその映画に触発され同郷の先人が切り開いた劔岳登頂の道を目指すことにした。

450km余りの夜間走行..

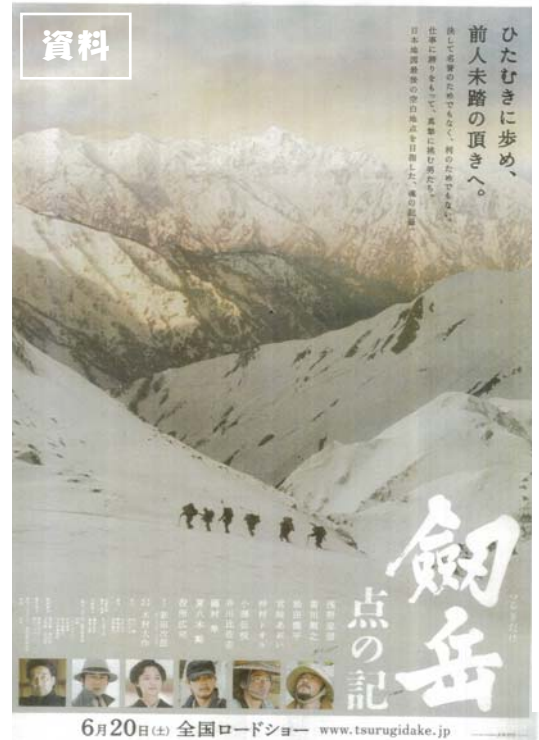
劔岳登山遠征隊の参加者はゲストを含めて5名の参加になった。9月13日（土）Pm8:50に2台の車に分乗して新庄を出発した。出発してすぐに渋滞？のような混雑した車列の中にいた。近くの戸沢村の道の駅「高麗館」の所で『最上川花火大会』が開かれていたのだ。蔵岡集落を過ぎた処で最後の花火？スターマインを車窓から見る事ができた。

そこを過ぎ、鶴岡から国道7号を新潟方面に向かって走った。新潟県村上市の「朝日まほろばIC」から日本海東北自動車道に上がり、新潟からは北陸自動車道に乗り継いだ。日付が変わった午前零時すぎ、黒崎PAで休憩した。北陸自動車道は夜間とあって車も少なく、途中休憩をしながら立山ICを目指して高速道路を順調に走った。Am4:05に立山ICから一般道に降りた。何しろ初めての道で、外はまだ暗い。案内板と「カーナビ」を頼りに立山ケーブルカーの駅を目指して進むのだが、なんか道幅の狭い住宅街に入り込んでしまった。しかし頼りになるのは案内板と「カーナビ」だけである。辛抱強く、忠実に進むと広い道路に出た。バイパスが出来ていたのに旧道を案内されて走ったようだ。

空が少し明るんできた。コンビニに立ち寄り食糧の買い出しをした。出入りする客の身なりから明らかに登山にきた「同類項」とわかった。

立山駅に到着する... 称名川に

架かる橋を渡り右折し、立山駅前の駐車場に止まる予定が、満車のため左折して河川敷の奥の方に誘導され駐車した。そこも30分もすれば満車になるような勢いで車が次々と入ってくる。時刻はAm5:20。立山ケーブルカーの始発はAm6:00である。早速身支度調べて長い河川敷を歩き立山駅に向かう。まだ薄暗い中、どこから湧き出たのか多くの登山者や観光客も一斉に立山駅に向かって歩きだしている。観光地の人気ぶりがうかがえる。



立山駅から天空の室堂へ・・・

観光地での誤算!?!・・・

立山駅
まで15分程歩くハメになった。駅前で見にしたのは溢れる程の登山客・観光客である。立山ケーブルカーのチケット売り場は長蛇の列でごった返していた。とても始発のケーブルカーに乗れないのは明らかであった。

ここ中部山岳国立公園立山黒部アルペンルートは立山駅からケーブルカーと高原バスを乗り継ぎ1時間で標高2450mの室堂に到着できる。更にロープウェイとケーブルカーを乗り継ぎ黒部ダムへと続く人気の山岳観光スポットである。

駅前の観光客の集団を目の当たりにして、始発に乗るのは無理であることをすぐに納得した。待ち時間を考慮しなかった観光地の誤算である。

本日の行程は、劔岳の最前線基地で、宿泊予定の劔山荘にPm2:40到着を予定している。ケーブルカーのチケット売り場の長い行列の最後部に並んだ。そしてやっと売り場で購入したチケットには「Am7:10発」と印字されていた。



ケーブルカーで美女平へ・・・

立山駅の標高は475mで立山ケーブルカーの終点「美女平」の標高は977mである。最大斜度29度、1.3kmの「路線」を7分でかけのぼるといふ。ケーブルカーは「つるべ式」で2台の車輦が運行している。

乗り場へ続く列に並び、ようやく私達の乗車の順番がきた。階段状になっているホームの最上部に上がって待っていると、ケーブルカーが入線してきた。そして慌ただしく乗り込むとワイヤーロープが引っ張られケーブルカーがグングンと上昇していく。車窓から見る柱状節理の岩肌や移りゆく景色に目を見張っていた。二つめの隧道の手前で上から下りてくるケーブルカーとすれ違った。終点部の最大斜度を登り切り、ケーブルカーは美女平のホームの中に収まり停止した。



観光地は長蛇の列 !?..

ケーブルカーを降りたら、高原バスの乗り場に続く列の最後部に並んだ。観光地の宿命か？長蛇の列に並んで待つことが観光地の日常？なのだろうか。

美女平から終点の室堂までは 23km の移動距離で、高原バスに 50 分の乗車で標高 2450m の天空に降り立つことが出来る。この道路は富山県道 6 号富山立山公園線であるが、マイカー規制が行われているために、一般客は必ず高原バスに乗らなければ室堂の登山基地に行くことはできない。



観光地名物 !?、「長蛇の列??」..



雲はあるが秋晴れ立山連峰の空

高原バスも、フル稼働なのだが..

天空の観光スポット!?!..

ようやく高原バスに乗車し、Am7:35 に出発した。標高差 1473m を高原バスは駆け上る。車内では立山観光のビデオが流れ、観光スポットでは運転手さんがスピードを緩めたり、一時停止をして観光名所を乗客全員に見させてくれた。特に林野庁の「森の巨人たち 100 選」になっているブナ平の立山スギや、落差 350m で日本一を誇る称名滝は遠目にも圧巻であった。標高が高くなるにつれ車窓からは北アルプスの峰々が間近に見られるようになってきた。

美女平を出発し丁度 50 分後の Am8:25 に終点の室堂ターミナルに高原バスが到着した。私達を含む乗客全員が標高 2450m の天空の世界に飛びでた。ここ室堂からそれぞれのドラマが始まる。



立山スギ：「林野庁の森の巨人たち 100 選」



称名滝

立山称名滝：滝の落差は日本一



朝日に輝く立山連峰が見えてくる..

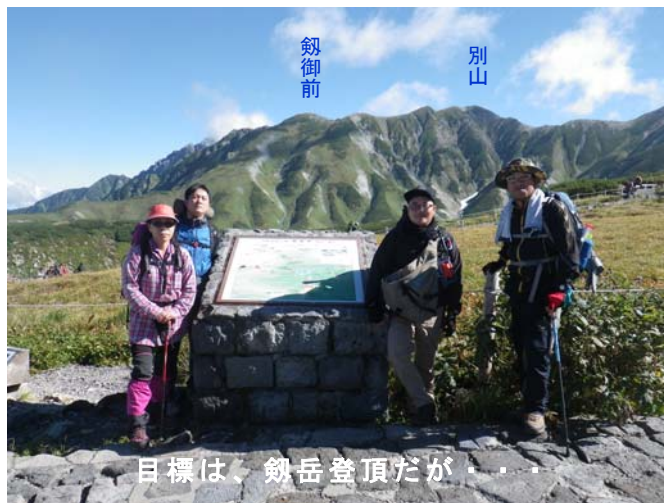
室堂から別山乗越へ・・・

立山連峰の登山基地!?!?・・・

室堂

ターミナル内の登山届ボックスに登山計画書を投函して戸外にでた。一带は室堂平と呼ばれ広い平坦な地形になっている。この立山連峰の登山基地・室堂ターミナルから宿泊予定地の剣山荘に辿り着くのか本日の行程御である。

ルートは室堂（2450m）から雷鳥沢（2280m）に下り、そこから別山乗越（2705m）まで登る。そして剣山荘（2470m）まで下るといふ、一見ハードな行程である。



目標は、劔岳登頂だが・・・

室堂平の名所??・・・

Am8:55 に室

堂を出発し劔岳に続く登山道を歩き出した。室堂平広場のみくりが池の水は晴天の青空を写してエメラルドグリーンに輝いていた。「みくりが池温泉」から少し登りになり、エンマ台（地獄谷展望台）についた。雷鳥沢や別山乗越と周辺の山々が一望できる絶景が広がっていた。



みくりが池に誘われて・・・



「みくりが池温泉」を通り過ぎると・・・

地獄谷の正体??・・・

エンマ台の西側

に地獄谷という場所がある。現在は火山ガスの発生のため周辺の歩道は立入禁止になっている。エンマ台の下にあるリンドウ池の近くを歩いた時、ハイマツがそのガスのため枯れ果てていた。百姓地獄、鍛冶屋地獄、紺屋地獄という場所があり、総称して地獄谷ということらしい。



正面には雷鳥沢と劔御前の絶景が・・・



左手には 地獄谷・・・

熊出没注意のキャンプ場 !?..

標高差で 100mほど下ると雷鳥沢に到達した。そこはキャンプ場になっていて、カラフルなテントで見事に埋め尽くされていた。「雷鳥沢」というからには「雷鳥」に出会えるのではと、キョロキョロと脇見をしながら進んだがその姿にお目にかかることは出来なかった。その代わりに「熊出没注意」の看板があり食べ残しは持ち帰りましょうとの注意喚起が書かれていた。こんな高山でも熊は出るんだアと納得した。



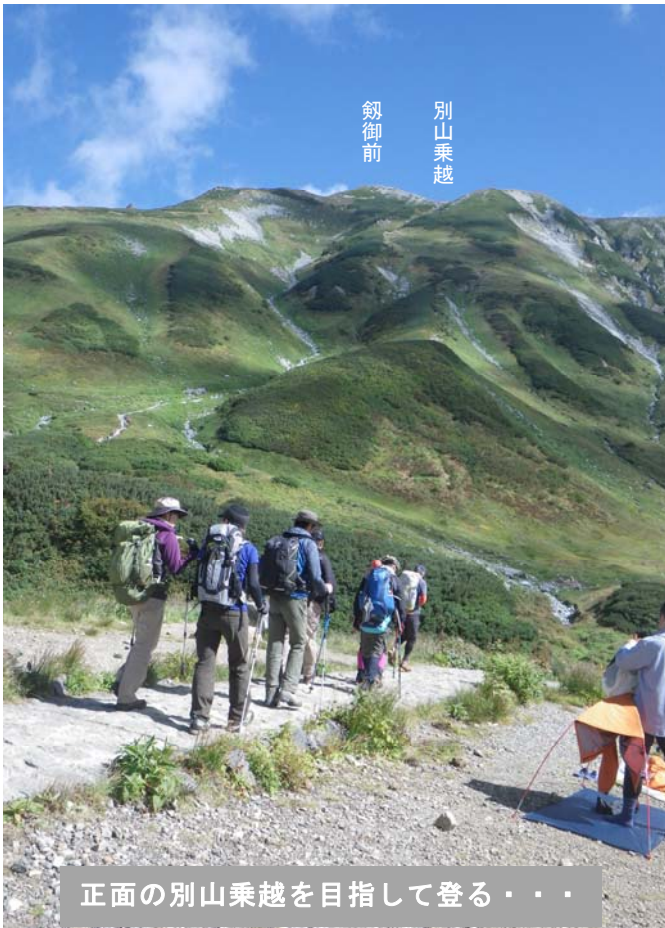
雷鳥沢キャンプ場をみて・・・



まだ序の口、快調に下山して行く



あふれんばかりのテントの群落・・・



別山乗越
劔御前

正面の別山乗越を目指して登る・・・

橋脚はフトン箆の橋 !?..

キャンプ場から空を見上げると別山乗越への道がクッキリと見て取れる。雷鳥沢から標高差で 430mを登らなければならない。時刻は Am10:05 で予定の時刻と 5 分と変わらない。(内心ビックリポン!?) 雷鳥沢に架かる橋の橋脚はガッチリしたフトン箆で板の橋も高い。増水時は相当の水が流れるでることが容易に想像出来た。



称名川源流：今は枯沢の橋を渡る・・・

登るほど広がる絶景 !!・・・ 雷鳥沢を過ぎ、いよいよ本格的な登り?になる。別山乗越まで急登が続くが、登るほど絶景が広がる。40分ほど登り休憩した。

少し喉を潤して再び登り始めた。すると上の方から「15名様団体行きま〜す」と元気のいい声がした。ガイドの女史が「どちらまで?」と言うので「劔岳へ・・・」と応じるや「じゃア、劔山荘にお泊まりですね」と私達の行程を知り尽くしたような言葉を残して下って行った。



チョット休憩・・・



室堂

雷鳥沢キャンプ場

また登るほどに・・・



地獄谷

雷鳥沢ヒュッテ

ロッジ立山連峰

絶景が広がる・・・

エネルギー補給 !?・・・

急坂の道は稜線に近づくほどきつくなる。時刻はAm11:30。夜間走行や急坂の登りで体力も消耗していた。ここで昼食をしてエネルギー補給することにした。



腹が減っては・・・



力が出ない



あア、んめえエ・・・



もう少しで別山乗越だ・・・



地獄谷

雷鳥沢ヒュッテ

雷鳥沢キャンプ場

振り返ると、天空からの絶景が・・・

あこがれの劔岳・・・ 別世界の風景と対峙する!!..

雷鳥沢から2時間40分を費やし、Pm1:00。別山乗越の劔御前小舎に到着した。立山連峰の稜線に位置するこの場所で、風景が一変する。頂を雲で隠れた劔岳の荒々しい岩峰が天空に突き出ている。私達はついに劔岳を至近距離にとらえる位置に立った。山頂部の雲は中々とれそうもない。憧れの劔岳の峰と対峙していると別世界に入り込むような不思議さを感じていた。



とうとう、別山乗越まで来ました・・・



別山乗越からは、別世界が広がる・・・



劔岳

紛れもない劔岳の山塊だ・・・



劔山荘へ、あと60分だァ!?!..

劔岳に向かって前進!!..

別山乗越で15分程休憩し劔山荘に向かう。予定していた劔沢でなく、劔山荘への最短ルートを下る事にした。あと1時間程で本日の宿「劔山荘」に到着できる筈である。前方に聳える劔岳に向かって下山していく。右手の劔沢にはキャンプ場があり、雷鳥沢に劣らぬで数多くのテントが張られている。この劔沢キャンプ場も劔岳登頂の最前線基地になっている。その下部には劔沢小屋や文部科学省の登山研修所の建物も確認できる。



靴ひもを締め直して・・・



劔山荘を目指して下る・・・



正面に劔岳と劔山荘が・・・



右手には劔沢が・・・



山頂の雲がとれるのを待ってみた・・・



すげえ～、登れっぺがア・・・

最前線基地・劔山荘に酔う!!..

宿泊予定の劔山荘に Pm3:00 に到着した。収容人員は160名だが、小屋は大混雑で、受付で4人分のスペースに5人で寝るようにと要請された。

戸外で宴を始めた。すぐ、隣の新潟からのグループの方と意気投合し酒を酌み交わした。何でも「カニのたてばい」まで行ったが、2時間待ちで帰ってきたという。登れるのか?と急に心配になったが、心地よい酔いが不安を払拭していた。



劔岳最前線基地での酒盛り??



ヒノキのおちょこで乾杯!!、(所有者は新潟の人)



夕食の食堂は“フル回転”・・・

劔岳山頂をめざして・・

夜明け前の一服劔 (2618m) !?・・

昨晚の新潟の人の話では山頂まで行けるかどうか解らない。今日は雷鳥沢の「雷鳥沢ヒュッテ」に泊まり、明日は山形新庄に帰る予定であることはハッキリしている。立山での日の出は Am5:30 である。夜明け前を見計らい、Am4:50 に山小屋を出た。ヘッドライトを点灯してまずは一服劔を目指して登山を開始した。(ワガツマは小屋で留守番)



一服劔で日の出を迎え・・

鹿島槍ヶ岳



前劔への道を登る・・

一服劔から前劔 (2813m) ・・・

一服劔に Am5:15 に辿り着いた。東の空が紅く燃え上がってきた。そして周囲の状況も確認できる程に明るさが増してきた。ここまでヘッドライトの光をたよりに手探りで登ってきた。しかし明るくなり周囲の状況を確認しながら登山できることは今更ながら安心して行動できるのでありがたく思った。(当たり前のことだが・・・)



足元の岩場を確認しながら登り・・



振り返ると立山の山々が朝日に輝く・・



前劔の大岩!! (落ちてくるなヨ!!・・)



後からも、登山者の列はつづく・・

前劔で朝食をとる・・・

Am6:25 に前劔についた。日の出から約1時間経過し、太陽光線も強くなってきた。昨夜支給された山小屋の弁当を頂くことにした。目の前には立山連峰、遠くには富山湾と能登半島が望めた。岩陰に腰を下ろし絶景を眺めながら、贅沢な山の朝食を口にした。



絶景を長めながらの朝飯だァ・・・



目の前には富山湾や能登半島も・・・

前劔から平蔵のコル・・・

前劔からは名だたる岩場が連なる。一瞬たりとて気が抜けない。ただ鎖や鉄バシゴ、そして足場確保のための鉄ボルトが岩に打ち込まれているとの情報である。こうした岩場を上り下りしなくては山頂への道はない。映画「劔岳 点の記」でいう「弘法大師」がわらじ 3000 足をはきつぶしても登れなかったという「針の山」なのだろう。おっかない？登頂路に間違いはないが、全身で岩肌に抱きつき、慌てずにゆっくり登ることを決め込んだ。



いよいよ岩場の難所に突入デス・・・



まずは4mの鉄の橋をわたると・・・



先行者が岩壁を渡っている・・・



前劔の門へ鎖にしがみつき降りる・・・



平蔵の頭：岩に足場のボルトが打たれている・・・



平蔵のコル：一枚岩は滑り易い、慎重に・・・

最難関の カニのたてばい・・・

問題の「カニのたてばい」にきた。新潟の人が昨夜言った待ち時間だが、10数人ほど岩に取り付いているが、すぐに登れる状況だ。下から上に登っていく人たちをしばし観察した。見ている「凄い処に来たもんだ!?!」と思ったが実際登ってみると案外順調に登り切ることが出来た。まさに「案ずるよりも産むが易し」である。



先行者の動きを観察して登攀する・・・



噂に名高い“カニのよこばい”だ・・・



登り終え振り返ると、かなりの高度感だ・・・



必死こいで登り切り・・・



岩棚で「ホッ」とひと安心・・・



ラストのエンダーさん、ガンバレっ・・・

ついに劔岳山頂に立つ・・・

「カニのたてばい」を全員が登り切った。山頂はもう間近である。少し登った所に下山専用の「カニのよこばい」への分岐点があった。ここまで来るともう安全地帯だが油断はできない。瓦礫の歩きにくい道を登り詰めていくこと10分程でついに劔岳山頂に立つことが出来た。時計に時刻はAm8:10を指していた。



“カニのよこばい”は下山専用だ!?



大丈夫かな?? “落ちない岩”・・・



170km先の富士山が見られた・・・



山頂直下で早月尾根ルートと合流・・・

劔岳山頂の風景 !!...

劔岳山頂はわりかし平坦な岩場で広さも結構ある。多くの登山者が絶景に見とれながら、食事をしたり写真を撮ったりして寛いでいた。何よりも天候に恵まれたことに感謝しつつ、かつて「針の山」と云われた劔岳山頂からの絶景に心奪われていた。



劔岳山頂で 笑顔の証拠写真・・・



山頂からの立山連峰と富山方面・・・



劔岳山頂のにぎわい・・・



燕岳 大天井岳 駒ヶ岳 木曾 槍ヶ岳 水晶岳 御嶽山 笠ヶ岳 黒部 五郎岳 薬師岳

不動岳 別山 雄山 劔御前

前劔

北アルプス!!、これぞ絶景だア・・・

劔岳からの下山 !?・・・

難所「カニのよこばい」・・・

Am8:40 に下山を開始した。ゴツゴツとした岩山を下り、下山の難所「カニのよこばい」にきた。そこでは10 数名の方が順番待ちをしていた。「カニのよこばい」では最初の一步の足場が解らず、身体と岩肌の上に隙間をつくり視線を足元に落とし足場を確認した。その後は鎖とハシゴにすがり慎重に下り平蔵のコルに到着した。



平蔵のコルから剣山荘へ・・・

下山の難所を通過したものの、一瞬とも気が抜けない岩場は続く。転ばないように、スリップしないように一步一步と下っていった。そしてようやく一服剣まできたら、眼下に剣山荘が見えた。留守番をしていた。ワガツマの姿も確認できた。



一枚岩：濡れている時は滑ります!?・・・



平蔵の頭を乗り越え!?・・・



前劔の門から岩山を下る!?・・・



前劔から劔沢を見おろす!?・・・



トリカブト



チングルマ



リンドウ



一服劔からの劔御前と劔山荘・・・



劔山荘で待つ ワガツマの姿が・・・

剣山荘で昼食を!?・・・

Am11:30に剣山荘に戻った。マガツマは朝食のあとに寝床を追われ居場所がなく、とにかく寒かったと嘆いていた。また小屋のスタッフから(きのう下りてきた登山道に)親子熊が出たとの情報を耳にした。

前庭で昼食をした。これから今夜の宿である「雷鳥沢ヒュッテ」まで下ることになる。



山荘の前庭で あったかい昼食をとる・・・



最前線基地の劔山荘で証拠写真・・・



中部山岳地帯には秋の訪れが・・・

雷鳥沢を目指して!?・・・

劔岳との別れ・・・

Am12:30に劔山荘を出発した。劔澤小屋、劔沢キャンプ場を経て別山乗越までは上り坂である。夜明け前からの行動で多少疲れ気味になっていた。劔沢キャンプ場を過ぎ振り向くと、雲一つない天空に突き出ている劔岳を目にした。別山乗越を下れば劔岳の姿は見えない。荒々しい岩肌に登った道をなぞり、網膜にその風景を閉じこめた



劔山荘

山頂の雲がとれた劔岳の全景を仰ぎ見る・・・

なつかしい風景 ??...

別山乗越に Pm2:30 に辿り着いた。予定よりだいぶ遅れたが、ここからは下りの道だけである。昨日は何度も振り返った風景を、今度は正面に見ながら下山する。きのう初めてみた風景なのに何となく「なつかしく」思えるのはどうしてだろう。時刻が Pm3:30 を過ぎた頃、メンバーの欽ちゃんに、先行して下山し宿のチェックインをお願いした。



別山乗越から下り始める・・・



ハイマツの間を過ぎて・・・



ただひたすらに雷鳥沢へと下る・・・



別山乗越

下山路を雷鳥沢に下りて振り返る・・・

山旅の宿「雷鳥沢ヒュッテ」

今日は月曜日である。結果的に1日ずらしたのがよかったのか、「雷鳥沢ヒュッテ」での部屋は定員12名の大部屋をあてがわれた。外湯のお風呂は「源泉かけ流し」ということだ。しかもここから室堂ターミナルまでは歩いて40分で着く距離なので余裕がある。山旅の疲れを温泉でほぐし、ゆったりと身体と心を癒やすにはとっておきの宿となった。



立山2日目の宿「雷鳥沢ヒュッテ」



ゆったりとした部屋でくつろぐ・・・

立山からの最後のプレゼント ??...

雷鳥沢の旅立ち... 9月16日(火)の朝を迎えた。今日の夕方には無事に山形新庄に戻っている筈である。天候と運に恵まれ、憧れの劔岳山頂に立つ事ができた。しかしひとつだけ心残りなことがある。それは雷鳥沢なのに、特別天然記念物の「ライチョウ」に出会えていない事である。

帰りは室堂からの始発 Am8:00 の高原バスに乗る予定である。朝食の時刻は Am6:00 と告げられている。朝食が済んだら室堂に向かって出発することにし、事前に旅立ちの支度を調えた。



立山3日目の朝「雷鳥沢ヒュッテ」全景



朝食のメニュー：おいしくいただきました・・・



キャンプ場のテントもまばらになった・・・



山小屋との別れ・・・

火山ガスの猛威...

地獄台は火山ガスのため立入禁止になってから2年が経過しているという。雷鳥荘近くのリンドウ池周辺は危険を知らせる看板や観測施設が随所に見られた。



火山ガスの観測装置・・・



火山ガス枯れ果てたハイマツ・・・



火山ガスは風向きにより・・・



その被害が異なるようだ・・・

サイトーさん、この鳥？何、??

エンマ台の所で、先行していた欽チャンが叫んだ。「サイトウさん、この鳥、キジじゃないし、なに??」と言い立ち止まっている。急いで追いついてみると、なんと紛れもなく「ライチョウ」ではないか!!、山旅の最終章にしてやっと出会うことができた。それは旅立つ私達への立山からの最後のプレゼントのように思えた。



待望の「ライチョウ」に・・・



ついに会うことができました・・・



帰って来ました。もうすぐ立山駅です・・・



高原バス乗り場。平日で待ち人まばら・・・

無事に登れた剱岳に感謝・・・

室堂ターミナルに Am7:30 についた。高原バスと立山ケーブルカーを乗り継いで立山駅に戻る。厳しい自然環境に晒されている北アルプス立山連峰。その主峰剱岳への登山が天候に恵まれた事に感謝したい。加えて参加者全員が環境の変化にも体調を維持し、足かけ3日間歩き通してくれた。好条件の下で剱岳に登れたことに感謝したい。

劔岳登山を終えて・・

劔岳の三角点・・

旧陸地測量部柴崎芳太郎測量官が劔岳に登り、三角点設置の山として選点したのは明治40年7月13日と点の記に記録がある。当時の三角点は登頂の困難さから三角点柱石のない四等三角点とした。

現在の三角点は平成16年8月24日に御影石柱石で三等三角点として設置されたものである。

それからの柴崎芳太郎・・

柴崎芳太郎は明治9年（1876年）に山形県大石田町で生まれた。明治37年（28歳）に陸地測量部修技所を卒業し陸地測量官の道を歩み始めた。陸地測量部勤務3年目の明治40年（31歳）に、映画の舞台となった「劔岳及び周辺の三等三角測量」に従事している。昭和8年（57歳）に病気で退官するまでの30年間に陸前、北海道、愛知、千島、支那、台湾など国内外での三角測量に従事した。明治42年（33歳）には「羽前・羽後方面の三等三角測量」を行っている。秋田県境を跨いで38の三等三角点を設置し、一等三角点丁（ひのと）岳の柱石の改埋も行っている。

当時の陸地測量部には地図の骨組みを測量する三角科と、地図製作の地形科があった。柴崎芳太郎は、国家の命題である正確な地図作製のため、その生涯を三角科の仕事に捧げ、昭和13年に肺炎のため死去した。享年64歳の人生であった。

柴崎芳太郎のふるさと・・

柴崎芳太郎が生まれた山形県大石田町は、かつては最上川最大の船着き場として栄えた町である。また大石田町は松尾芭蕉や齋藤茂吉等が訪れた町としても有名である。

大石田町在住の友人に柴崎芳太郎の生家を探して貰い、その場所を尋ねてみた。その生家は最上川右岸の住宅街にあった。ただ現在は空き家で、残念ながら当主のお話は聞けなかった。

初めてにして劔岳山頂にたつ・・

一生懸命頑張っても結果が出ない局面が多々ある。今回、劔沢から初めてみた劔岳は、その山頂を天に向かって垂直に峙^{そばだつ}っていた。まさに「針の山」である。その迫力の岩峰に度肝を抜かれた思いだった。身近な知人が3度行って、3度とも引き返した山と聞いていた。とにかく平蔵のコルまでは行ってみようと夜明けと共に挑んだ結果、山頂にまで登れた。天候に恵まれ、参加者の体調も維持できた。真新しい鎖やハシゴには安心感があった。すべては「運」が良かったと感謝するのみである。



現在の三等三角点「劔岳」



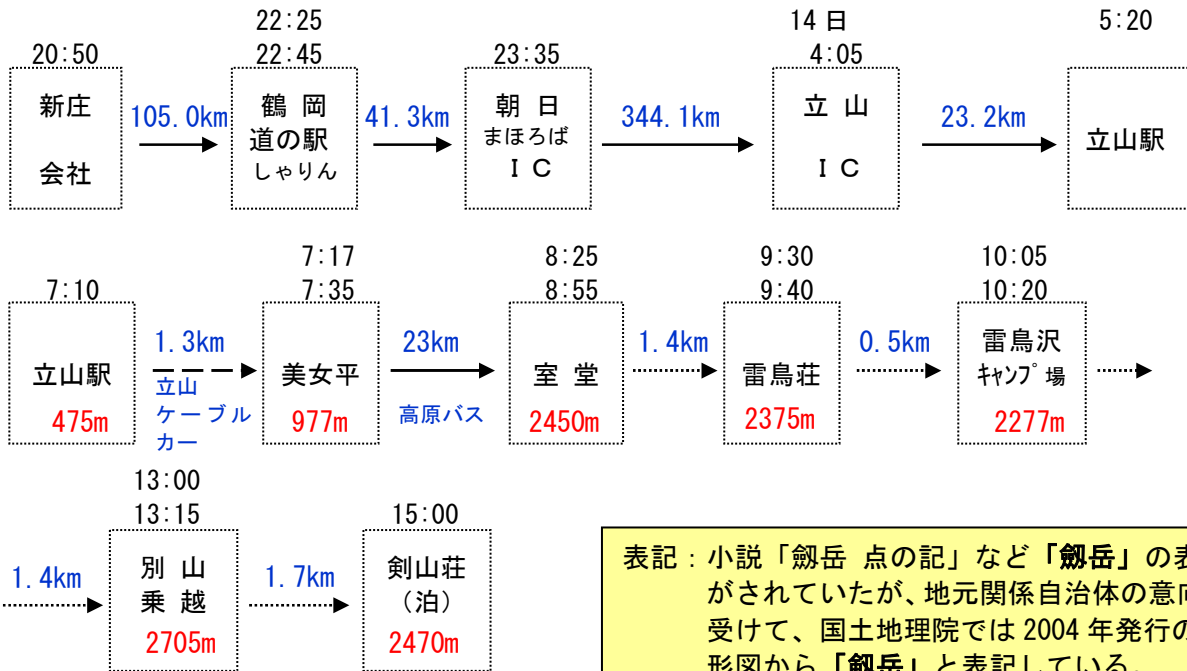
明治44年（35歳）頃の柴崎芳太郎
出典：月刊誌『測量』2009年4月号



柴崎芳太郎の生家：山形県大石田町（2014年10月）

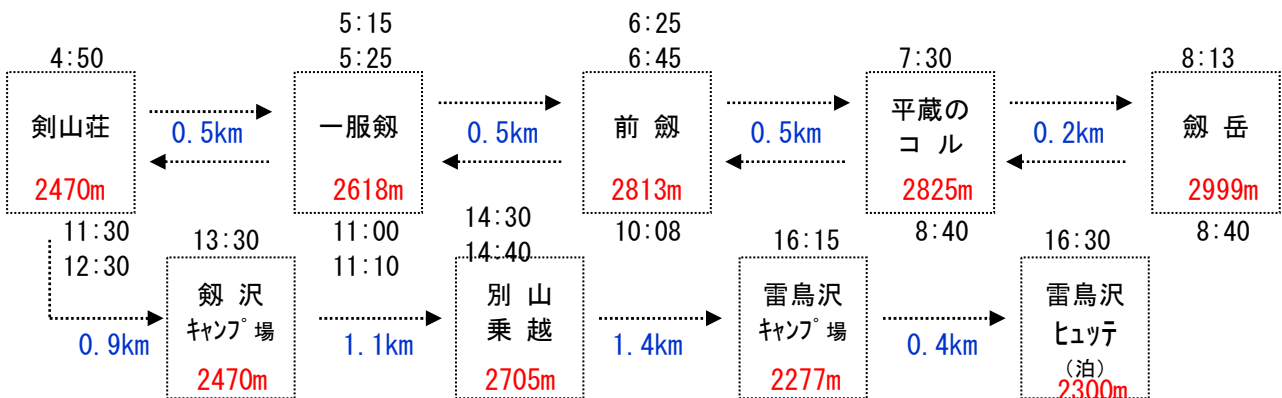
劔岳登山の行程(実績)

9月13日(土)~14日(日) 車 457km (7:30)

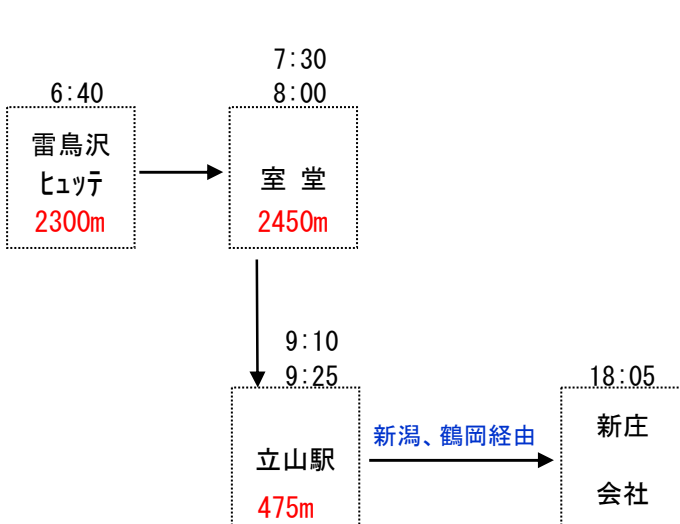


表記：小説「劔岳 点の記」など「劔岳」の表記がされていたが、地元関係自治体の意向を受けて、国土地理院では2004年発行の地形図から「劔岳」と表記している。

9月15日(月)



9月16日(火)







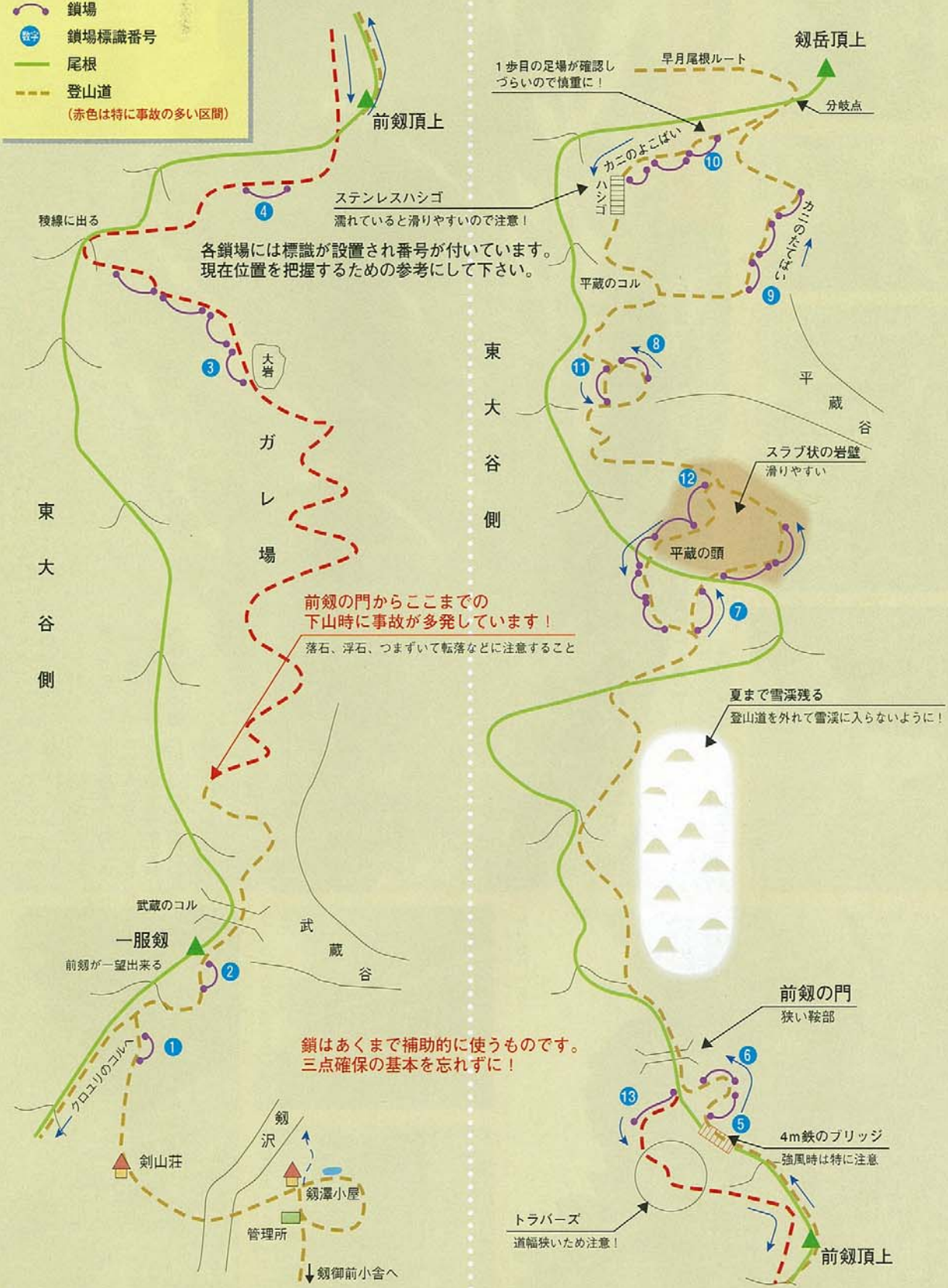
劔岳登山の費用はおいくら？	
1、ガソリン代	15,031円
A車 47.0㍓	7,891円
B車 45.0㍓	7,140円
2、通行料金	42,730円
高速料金 4,360@2台 (往)	
" 6,230@2台 (復)	
立山山岳道路 4,310@5名	
3、宿泊費	95,000円
9,500@5名×2泊	
4、飲食費ほか	14,085円
合計費用	166,846円 (一人当 33,370円)

劔岳別山尾根ルート 安全登山マップ

発行者／富山県自然保護課 TEL 076-444-3398

凡例

-  鎖場
-  鎖場標識番号
-  尾根
-  登山道
- (赤色は特に事故の多い区間)



1歩目の足場が確認しづらいので慎重に！

ステンレスハシゴ
濡れていると滑りやすいので注意！

各鎖場には標識が設置され番号が付いています。
現在位置を把握するための参考にして下さい。

前劔の門からここまでの
下山時に事故が多発しています！
落石、浮石、つまづいて転落などに注意すること

夏まで雪渓残る
登山道を外れて雪渓に入らないように！

鎖はあくまで補助的に使うものです。
三点確保の基本を忘れずに！

4m鉄のブリッジ
強風時は特に注意

トラバース
道幅狭いため注意！